

# 平成 25 年度学習指導要領実施状況調査 教科等別分析と改善点

## (小学校 体育 (保健領域))

### 1. 今回の調査結果の特色

#### (1) 調査結果の概要

##### ① ペーパーテスト調査

＜今回の改訂の基本的な考え方に関する事項、各教科等の主な改善事項の実現状況、課題等＞

##### ○ 思考力・判断力・表現力等の解決に向けた実践力の育成

- ・ 身近な健康課題の解決に向けた思考力・判断力・表現力等を問う「心の発達と生活」、「自転車の交通事故の原因」、「周囲の状況を見極め、犯罪にあいやすい点」の問題は、相当数の児童ができていますと考えられる。
- ・ 生涯にわたる健康課題等の解決に向けた思考力・判断力・表現力等を問う「生活の仕方がもとになって起こる病気の原因」の問題は、相当数の児童ができていますと考えられる。しかし、「けがの防止」の「頭を強く打って動かなくなった友達への対処」の問題は、けがの種類や程度などの状況をよく見極め、的確に判断し対処することに、課題があると考えられる。「喫煙と健康の関係」の問題は、図を読み取り、健康情報を分析することに、課題があると考えられる。
- ・ 健康に関する概念について具体例を当てはめたり、具体例を考え記述したりする思考力・判断力・表現力等を問う「心と体の相互の影響」の問題は、抽象的な健康の概念と具体例を関連付けたり、具体例を考えて、それを表現したりすることに、課題があると考えられる。

##### ○ 身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容の理解

- ・ 日常生活における基礎的な内容を問う問題のうち、「身長伸びの個人差」、「調和のとれた食事（カルシウム・ビタミンの摂取の必要性）」、「インフルエンザの予防」、「自分でできるけがの手当」は、相当数の児童ができていますと考えられる。
- ・ 日常生活との関連だけでは捉えにくいと考えられる「初経、精通などの思春期の体の変化」、「予防接種の理解」、「地域の様々な保健活動」の内容の理解に、課題があると考えられる。

＜今回の改訂で新設、学年及び学校種を越えて移行した事項の実現状況、課題等＞

##### ○ 新設した事項に関わる問題のうち、「体の発育・発達の個人差」、「周囲の状況を見極め、犯罪にあいやすい点」を問う問題は、相当数の児童ができていますと考えられる。

##### ○ 地域における保健活動を問う「地域の様々な保健活動の取組」の問題については、保健所や保健センターなどの内容の理解に、課題があると考えられる。

＜従来より課題と指摘される事項や、経年比較等の観点から把握・分析が必要な事項の実現状況、課題等＞

##### ○ 生活習慣の乱れや食生活について問う「調和のとれた食事（カルシウム・ビタミンの摂取の必要性）」、「生活行動がかかわって起こる病気の予防」、「体をよりよく発育・発達させるための生活」の問題は、相当数の児童ができていますと考えられる。

##### ○ 心の健康に関する基礎的な内容について問う「心と体の相互の影響」の問題については、心と体の関係を思考・判断することに、課題があると考えられる。

##### ○ 性に関する基礎的な内容について問う「初経、精通などの思春期に生じる心身の変化」の問題については、初経・精通の理解に、課題があると考えられる。

- 感染症の予防に関する基礎的な内容について問う「体の抵抗力を高める方法」の問題については、予防接種の理解に、課題があると考えられる。
- 交通安全に関する基礎的な内容について問う問題は、相当数の児童ができていると考えられる。
- 安全に関して問う「けがの手当」の問題については、けがの種類や程度などの状況をよく見極め、的確に判断し対処することに、課題があると考えられる。

## ② 質問紙調査

- 保健の学習の成果を問う児童質問紙調査の「保健を学習して、食事、運動、休養及び睡眠に気を付けるようになりましたか。」と「保健を学習して、健康や安全が大切だと思えるようになりましたか。」の質問に対して、「気を付けるようになった(そうなった)」、「どちらかといえば気を付けるようになった(どちらかといえばそうなった)」という肯定的な回答の割合は8割以上である。
- 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動については、相当数の児童は保健で学習したことを振り返って生活に役立てていると回答している。
- 保健の内容の意義や重要性を問う教師質問紙調査の「保健の内容は、心身ともに健康な国民の育成に重要だと思いますか。」に対して、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」という肯定的な回答の割合は100.0%である。
- 思考・判断を促す指導に関して、教師質問紙調査の「児童の生活経験やこれまでの知識と、保健の授業で新たに学んだことを比較したり、関連付けたりするような活動を取り入れた授業を行っていますか。」や「児童が身近な生活における課題を発見し、解決する授業を行っていますか。」の質問に対して、「行っている」、「どちらかといえば行っている」という肯定的な回答の割合は約8割である。
- 思考・判断することを踏まえて表現する学習活動について、児童質問紙調査の「保健の学習で、自分の考えを書いたり、発表したりすることをしていきますか。」や、教師質問紙調査の「児童の多様な考えを引き出すために、グループや全体での話し合い活動を取り入れた授業を行っていますか。」の質問に対して、それぞれ肯定的な回答の割合は必ずしも高いとは言えず、課題があると考えられる。
- 思考力・判断力・表現力等の育成を重視した学習活動に積極的に取り組んでいる児童は、ペーパーテスト調査における心の健康の思考・判断に関する問題の通過率が高い。

## (2) ペーパーテスト調査結果の主な特色

### ① 今回の改訂の基本的な考え方に関する事項、各教科等の主な改善事項の実現状況、課題等

#### ア 思考力・判断力・表現力等の解決に向けた実践力の育成

##### (ア) 身近な健康課題

- 該当する7問のうち、相当数の児童ができていると考えられるものが4問である。
- 「自分の心を発達させるために生活の中でできそうなこと」を記述する問題[6 **1**](4)の通過率は94.1%であり、自然体験や遊び、学習など、心を発達させるために自分で取り組むことができそうな方法を見付け、実践につなげて考えることについては、相当数の児童ができていると考えられる。
- 「自転車転倒事故の発生原因となった、人の行動と環境」を選択する問題[6 **2**](2)人の行動]、[6 **2**](2)まわりの環境]の通過率はそれぞれ87.5%、94.3%であり、状況の場面から、自転車の交通事故の防止について考えることについては、相当数の児童ができていると考えられる。また「犯罪にあいやすい点」を記述する問題[6 **2**](6)の通過率は86.1%であり、周囲の状況を見極め、犯罪被害の防止について考え、判断し、説明することについては、相当数の児童ができていると考えられる。
- 上述のことについて、多くの児童は、身近な健康課題の解決に当たって、自分で取り組むことができそうな方法を見付け、実践につなげて考えることや、自転車の交通事故や身の回りの生活の危険についての状況の場面から原因を考え、判断し、説明するといった、身近な生活経験と結び付ける思考力・判断力・表現力等は身に付いていると考えられる。

##### (イ) 生涯にわたる健康課題等の解決

- 該当する3問のうち、相当数の児童ができていると考えられるものが1問、課題があると考えられるものが2問(5%前後の調整をした問題:6 **2**](4)を含む)である。
- 「生活の仕方がもとになって起こる病気の原因」についての問題[6 **3**](3)の通過率は86.3%であり、偏った食事が病気の原因となることを思考・判断することについては、相当数の児童ができていると考えられる。
- 一方、「頭を強く打って動かなくなった友達への対処」についての問題[6 **2**](4)の通過率は63.1%であり、児童がそのような場面に遭遇した場合、状況をよく見極め、的確に判断し対処することについては、課題があると考えられる。これは、学校で誰かがけがをしたとき、急いで保健室に連れて行くという行動は児童にとって日常的なことであるが、頭を強く打つなどのそれに当てはまらない場合もあることについての理解が不十分であるためと考えられる。
- 「たばこを吸い始めた年齢と肺がんにかかる割合」についての図を読み取る問題[6 **3**](4)の通過率は47.5%であり、健康情報を分析することに課題があると考えられる。全体の約30.8%の児童は、「たばこを吸い始めた年齢」と「肺がんにかかる割合」の二つの要因、あるいはいずれかについて記述できていない。また、約21.8%の児童が二つの要因を挙げているものの、両者の関係性を誤って記述している。これは、健康情報を読み取り、分析し、表現する力の育成が十分ではないためと考えられる。

##### (ウ) 健康に関する概念を具体例を挙げて説明すること

- 該当する3問のうち、課題があると考えられるものが2問である。
- 「心と体の相互の影響」のうち、「体が心に与える影響」について具体例を選択する問題[6 **1**](5)①ア]の通過率は77.6%であり、一定の成果があると考えられる。

- 一方、「心と体の相互の影響」のうち、「心の状態が体に与える影響」について具体例を選択する問題[6 **1**](5)①イ]の通過率は44.0%，また、「心と体の相互の影響」について、具体的な場面を記述する問題[6 **1**](5)②]の通過率は46.6%であり、心と体の相互の影響について具体例を当てはめたり、関係していることを記述したりする思考力・判断力・表現力等に課題があると考えられる。
- 上述のことについて、抽象的な健康の概念と具体的な事例とを結び付けて考え、判断し、表現する力の育成が十分ではないことが考えられる。

#### イ 身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容の理解

- 該当する13問のうち、相当数の児童ができていと考えられるものが8問、課題があると考えられるものが3問である。
- 「身長伸びの個人差」についての問題[6 **1**](1)]の通過率は97.0%であり、体の発育・発達には個人差があることを理解することについては、相当数の児童ができていと考えられる。
- 「たんぱく質摂取の必要性」についての問題[6 **1**](3)①]の通過率は77.7%，「カルシウム摂取の必要性」についての問題[6 **1**](3)②]の通過率は84.9%，「ビタミン摂取の必要性」についての問題[6 **1**](3)③]の通過率は83.5%であり、体をよりよく発育・発達させるのに必要な栄養素を理解することについては、一定の成果があると考えられる。
- 「心の発達には人との関わりが大切であること」についての問題[6 **1**](4)]の通過率は92.4%であり、心は、人との関わりなどいろいろな生活経験を通して発達することを理解することについては、相当数の児童ができていと考えられる。
- 「傷口を清潔にすること」についての問題[6 **2**](3)イ]の通過率は89.6%，「圧迫して出血を止めること」についての問題[6 **2**](3)ウ]の通過率は86.9%，「患部を冷やすこと」についての問題[6 **2**](3)エ]の通過率は91.3%であり、自分でできる簡単なけがの手当の理解については、相当数の児童ができていと考えられる。
- 「インフルエンザの予防」についての問題[6 **3**](1)]の通過率は97.2%であり、病原体が基になって起こる病気の予防については、相当数の児童ができていと考えられる。
- このように、身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容については全体的に通過率が高く、児童はおおむね理解していと考えられる。
- 一方、「思春期の体の変化」についての問題[6 **1**](2)]の通過率は47.6%，「体の抵抗力を高めること」についての問題[6 **3**](2)]の通過率は56.6%，「地域の様々な保健活動をおこなっているところ」についての問題[6 **3**](6)①]の通過率は19.6%であり、思春期になると初経・精通が起こること、予防接種によって体の抵抗力が高まること、保健所や保健センターなどの活動についての理解に課題があると考えられる。
- これらの問題に出てくる「初経・精通」、「予防接種」、「保健所や保健センター」などは、日常生活と結び付けて捉えにくいと考えられ、これらの内容については、取扱いや仕組みの説明に工夫や配慮が求められる。

### ② 今回の改訂で新設、学年及び学校種を越えて移行した事項の実現状況、課題等

< 今回の改訂で新設した事項の中で、関連する問題 >

学 年	新 設 事 項	問 題 番 号	問 題 数
第4学年	「育ちゆく体とわたし」(2)アのうち、体の発育・発達には、個人差があることについての理解を問う問題	6 <b>1</b> (1)	1

第5学年	「けがの防止」(2)アのうち、危険について早く気づき、事故やけが、犯罪被害を防ぐ方法を考えているかを問う問題	6-2(5)	3
	「けがの防止」(2)アのうち、周囲の状況を見極め、犯罪にあいやすい点を問う問題(犯罪にあいやすい点) 「けがの防止」(2)アのうち、犯罪が起こりやすい場所を避け、犯罪に巻き込まれない方法を考えているかを問う問題(犯罪にあわないために気を付けること)	6-2(6)	
第6学年	「病気の予防」(3)オのうち、地域の様々な保健活動を行っている場所の理解を問う問題(地域で人々の健康を守るための活動を行っているところ)	6-3(6)①	2
	「病気の予防」(3)オのうち、地域の様々な保健活動の取組についての関心を問う問題(地域で人々の健康を守るための活動で詳しく調べてみたいこと)	*6-3(6)②	

※6-3(6)②については、関心・意欲を問う問題のため下記の間数には含まれない

- 平成20年3月の小学校学習指導要領の改訂では、心身の発育・発達の個人差、けがの防止としての安全、地域の様々な保健活動の取組等が新設された。
- 該当する5問のうち、相当数の児童ができていると考えられるものが2問、課題があると考えられるものが1問である。
- 通過率が高かったのは「体の発育・発達には、個人差があることについての理解」を問う問題[6-1(1)]で97.0%であり、体の変化の時期や身長伸び方は一人一人違うことについては、相当数の児童ができていると考えられる。
- 次いで通過率が高かったのは「周囲の状況を見極め、犯罪にあいやすい点」を問う問題[6-2(6)]で通過率は86.1%であり、犯罪被害の防止に関する思考力・判断力等に関する問題も、相当数の児童ができていると考えられる。
- このように、通過率が高かった2問は、体の発育・発達の個人差に関する知識や、危険に早く気付いたり周囲の状況を考えて犯罪被害を防いだりすることに関する思考力・判断力等の児童の身近な生活に関する内容であるとともに、個人の身体の健康・安全について問う問題である。そのため、児童は身近で個人的な健康に関する知識や思考力・判断力等は身に付いていると考えられる。
- 一方、通過率が低かったのは「人々の病気を予防するために、生活習慣にかかわる情報提供や予防接種などの地域の様々な保健活動を行っている場所の理解」を問う問題[6-3(6)①]で通過率は19.6%であり、相当数の児童が答えられておらず、課題があると考えられる。これは、児童が生活の中で関わるのが少なくイメージしにくいためであると考えられる。
- なお、[6-3(6)②]の問題は、正解を問うているものではなく、「地域で人々の健康を守るための保健活動について関心を持って調べてみたいこと」を挙げる問題である。この問題の反応率を高い順に見ると、「健康に関するお知らせ」56.5%、「予防接種」52.5%である。「健康に関するお知らせ(情報提供)」や「予防接種」は、学習指導要領解説に記載されている「人々の病気を予防するために、保健所や保健センターなどでは、健康な生活習慣にかかわる情報提供や予防接種などの活動が行われていることを理解できるようにする」の例示と一致している。

### ③ 従来より課題と指摘される事項や、経年比較等の観点から把握・分析が必要な事項の実現状況、課題等

- 該当する 24 問のうち、相当数の児童ができていと考えられるものが 12 問、課題があると考えられるものが 6 問（5%前後の調整をした問題：6 [2] (4)を含む）である。
- 中央教育審議会の答申「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」（平成 20 年）では、社会状況等の変化に伴って生じる課題として、生活習慣の乱れ、心の健康に関する課題、性の問題行動、感染症、食生活、事件・事故や交通事故等について指摘している。そこでこの調査における保健領域では、従来課題と指摘される事項として、生活習慣の乱れ、心の健康、性、感染症、食生活、安全に関する問題を設定している。
- 生活習慣の乱れに関連する問題のうち「生活行動がかかわって起こる病気の予防」について問う問題[6 [3] (3)]の通過率は 86.3%であり、相当数の児童ができていと考えられる。生活習慣の乱れと関連し、なおかつ現代的な課題でもあるがんについて、「日本の死亡原因の一位であるがんの理解」を問う問題[6 [3] (5)①]の通過率は 79.4%であり、一定の成果があると考えられる。この結果から、児童は日本の死亡原因の一位ががんであることを理解していると考えられる。これは、生活行動が関わって起こる病気の予防に関する内容としてがんを取り上げた学習が浸透していることによると考えられる。
- また、この問題に関連して、児童が知りたいことを選択する問題[6 [3] (5)②]の反応率は、「病気の予防法」(79.7%)、「病気の治療法」(74.8%)、「病気の原因」(69.4%)と「病気の発見法」(68.9%)の順に高い割合を示している。その一方で、「病気の種類」が 41.5%で最も低い値を示している。児童は、がんに関して、「病気の予防法」と「病気の治療法」についての関心が高いと考えられる。
- また、がんの発生の単一要因として喫煙は最大のものである。「たばこを吸い始めた年齢と肺がんにかかる割合」について図から読み取る問題[6 [3] (4)]の通過率は、47.5%で課題があると考えられる。これは、喫煙開始年齢と肺がんの罹患率との関係性について、図に示されている情報を適切に読み取ることが十分ではないためと考えられる。
- 心の健康に関して「人との関わりが大切であること」について問う問題[6 [1] (4) 選択問題]の通過率は 92.4%、「心を発達させるために自分でできそうなこと」を記述する問題[6 [1] (4)]の通過率は 94.1%であり、相当数の児童ができていと考えられる。
- 心と体の相互の影響のうち「心から体への影響」について問う問題[6 [1] (5)①(イ)]の通過率は 44.0%、「心と体の関係について具体的な場面」を問う問題[6 [1] (5)②]の通過率は 46.6%と低く、心身相関に関する概念については課題があると考えられる。これは、抽象的な心の概念の理解について具体例と関連付けて思考・判断する学習が十分でないことに関係していると考えられる。
- また、不安や悩みへの対処のうち、「自分でできそうな不安や悩みへの対処方法」についてしていることや、しようとしていることを選択する問題[6 [1] (6)]の反応率は、「音楽をきく」(61.2%)、「家族に相談する」(58.6%)、「遊ぶ」(57.9%)、「友達に相談する」(56.6%)の順に高い割合を示している。「自分で原因を考える」という対処方法も、47.7%と上記項目に次ぐ高い割合を示している。しかし、「体ほぐしの運動」の反応率は 20.3%にとどまっており、課題があると考えられる。これは、保健領域の授業において、運動領域の内容との相互の関連付けが十分ではないためと考えられる。
- 性に関する問題のうち「初経、精通等の思春期に生じる心身の変化」についての理解を問う問題[6 [1] (2)]の通過率は 47.6%であり、初経、精通等の体の変化と異性への関心の理解については、課題があると考えられる。個人差の大きい初経、精通等の心身の変化については、体の発育・発達に関する身近な現象として具体的に

指導しにくい場合もあるためと考えられる。

- 食生活に関連する「たんぱく質摂取の必要性」についての問題[6-1(3)①]の通過率は77.7%、「カルシウム摂取の必要性」についての問題[6-1(3)②]の通過率は84.9%、「ビタミン摂取の必要性」についての問題[6-1(3)③]の通過率は83.5%であり、一定の成果があると考えられる。
- 感染症に関連して「病原体がもとになって起こる病気の予防」を問う問題[6-3(1)]の通過率は97.2%であり、病原体が基になって起こる病気の予防については、相当数の児童ができていると考えられる。しかし、「体の抵抗力を高める方法」について問う問題[6-3(2)]の通過率は56.6%であり、体の抵抗力を高める予防接種についての理解に課題があると考えられる。これは、予防接種が抵抗力を高める方法として児童に理解されていないためと考えられる。
- 安全に関する問題のうち「自転車転倒事故の原因となった、人の行動と環境」を選択する問題[6-2(2)人の行動],[6-2(2)まわりの環境]の通過率はそれぞれ87.5%、94.3%であり、自転車の交通安全については、相当数の児童ができていると考えられる。これは、交通安全に関する基本的な学習が浸透していることによると考えられる。
- また、けがの手当のうち「傷口を清潔にすること」についての問題[6-2(3)イ]の通過率は89.6%、「圧迫して出血を止めること」についての問題[6-2(3)ウ]の通過率は86.9%、「患部を冷やすこと」についての問題[6-2(3)エ]の通過率は91.3%であり、けがの防止についての基本的な内容については、相当数の児童ができていると考えられる。
- 「頭を強く打って動かなくなった友達がいた時の対処」についての判断を問う問題[6-2(4)]の通過率は63.1%と低率であり、自分では手当できない大きなけがの対処についての判断に課題があると考えられる。これは、けがに対する基本的な対処方法についての学習は浸透しているものの、けがの種類や程度などの状況に応じた対処方法に関する学習が十分ではないことに関係していると考えられる。

### (3) 質問紙調査の結果の概要

#### ① 児童質問紙調査

児童への質問	学年	回答の割合 (%)				
		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
保健の学習が好きだ	第6学年	13.9	39.8	27.0	13.3	4.7
保健の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ	第6学年	55.3	29.8	5.5	2.1	1.6
児童への質問	学年	回答の割合 (%)				
		よくわかる	だいたいわかる	わかることとわからないことが半分くらいずつある	わからないことが多い	ほとんどわからない
保健の授業がどの程度わかりますか	第6学年	23.4	49.2	21.6	3.3	1.3

- 「保健の学習が好きだ」という質問に対して、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」という肯定的な回答の割合は53.7%にとどまっており、十分とは言えない。一方で、「保健の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ」という質問に対して、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」という肯定的な回答の割合は85.1%であり、相当数の児童が保健の学習の価値を認識している。
- 「保健の授業がどの程度わかりますか」という質問に対して、「よくわかる」、「だいたいわかる」という肯定的な回答の割合は72.6%であり、保健において分かりやすい授業が展開されていると考えられる。
- 「保健を学習して、健康や安全についてもっと調べるようになりましたか。」という質問に対して、「調べるようになった」、「どちらかといえば調べるようになった」という肯定的な回答の割合は56.7%にとどまっており、児童の関心や意欲が十分でないと考えられる。
- 学習指導要領に示されている第5・6学年で学習する保健の内容の10項目のうち、「よくわかった」、「だいたいわかった」という肯定的な回答の割合が80.0%を超えているものは、「地域の様々な保健活動の取組」を除いた9項目であり、相当数の児童は、保健の授業において内容を理解していることがうかがえる。「地域の様々な保健活動の取組」については、「よくわかった」、「だいたいわかった」という肯定的な回答の割合は64.0%にとどまっており、この内容はペーパーテスト調査においても通過率が低い。
- 「保健を学習して、食事、運動、休養及び睡眠に気を付けるようになりましたか。」という質問に対して、「気を付けるようになった」、「どちらかといえば気を付けるようになった」という肯定的な回答の割合は82.2%であり、また、「保健を学習して、健康や安全が大切だと思うようになりましたか。」という質問に対して、「そうになった」、「どちらかといえばそうになった」という肯定的な回答の割合は94.1%であり、相当数の児童が保健の学習の成果を認識している。
- 「保健の学習で、写真や図や表からわかることを読み取って、まとめていますか。」という質問に対して、「そうしている」、「どちらかといえばそうしている」という肯定的な回答の割合は70.8%であり、また、「保健で学習したことを、自分が知っていることや経験したことと比べたり、結びつけて考えたりしていますか。」という質問に対して、「そうしている」、「どちらかといえばそうしている」という肯定的な回答の割合は69.7%である。これらに対して、「保健の学習で、自分の考えを書いたり、発表したりすることをしていきますか。」という質問に対して、「そうしている」、「ど



ちらかといえそうしている」という肯定的な回答の割合は 57.0%にとどまっており、思考・判断を促す学習活動に肯定的に取り組んでいる児童の割合に比べて、思考・判断したことを表現する学習活動については十分定着していない状況が見られる。

- 児童が保健の学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする学習のうち、児童が学習を見通す活動に関して問う「保健の学習で、自分で予想したり、友達と協力して予想したりして、考えようとしていますか。」という質問に対して、「そうしている」、「どちらかといえそうしている」という肯定的な回答の割合は 72.8%である。一方で、児童が学習活動を振り返る活動に関して問う「保健で学習したことを、自分の生活に役立てていますか。」という質問に対して、「役立てている」、「どちらかといえ役立てている」という肯定的な回答の割合は 86.1%である。

## ② 教師質問紙調査

- 保健の内容の意義や重要性を問う「保健の内容は、心身ともに健康な国民の育成に重要だと思いますか。」という質問に対して、「そう思う」、「どちらかといえそう思う」という肯定的な回答の割合は 100.0%である。
- 「児童の身近な日常生活の体験や事例を取り上げるような授業を行っていますか。」という質問に対して、「行っている」、「どちらかといえ行っている」という肯定的な回答の割合は 95.6%である。相当数の児童は、発達の段階に応じて身近な日常生活の体験や事例を用い、実践的な理解を促すよう工夫している教師から指導を受けている。
- 「児童の生活経験やこれまでの知識と、保健の授業で新たに学んだことを比較したり、関連付けたりするような活動を取り入れた授業を行っていますか。」という質問に対して、「行っている」、「どちらかといえ行っている」という肯定的な回答の割合は 78.4%である。また、「児童が身近な生活における課題を発見し、解決する授業を行っていますか。」という質問に対して、「行っている」、「どちらかといえ行っている」という肯定的な回答の割合は 78.3%である。約 8 割の児童は、習得した知識を活用する学習活動を積極的に行い、思考力・判断力等の育成を目指して工夫している教師から指導を受けている。
- 「児童の多様な考えを引き出すために、グループや全体での話し合い活動を取り入れた授業を行っていますか。」という質問に対して、「行っている」、「どちらかといえ行っている」という肯定的な回答の割合は 69.4%であり、言語活動を取り入れた指導については一部に定着していない状況が見られる。
- 「授業を受けた後で、児童が自ら健康に関する情報を調べたくなるような授業を行っていますか。」という質問に対して、「行っている」、「どちらかといえ行っている」という肯定的な回答の割合は 45.1%にとどまっており、健康について、児童の関心や意欲を高める指導が十分行われていない状況が見られる。
- 学習指導要領に示されている第 5・6 学年で指導する保健の内容の 10 項目のうち、「児童が理解しやすい」という回答の割合が 80.0%を超えているものは、「心と体のつながり」、「交通事故や生活の危険が原因となって起こるけがとその防止」、「けがの手当」、「病気の起こり方」、「生活行動がかかわって起こる病気の予防」の 5 項目である。また、「心の発達」、「不安や悩みへの対処」、「病原体がもとになって起こる病気の予防」の 3 項目については、同様に 75.0%を超えている。

## ③ 児童質問紙調査と教師質問紙調査との関係

- 児童質問紙調査の「保健を学習して、健康や安全が大切だと思うようになりましたか。」という質問に対して、「そうなった」、「どちらかといえそうなった」という肯定的な回答の割合は 94.1%であり、教師質問紙調査の「児童が健康や安全の大切さに気付くような授業を行っていますか。」という質問に対して、「行っている」、「どちらかといえ行っている」という肯定的な回答の割合は 96.4%である。相当

数の児童が健康や安全の価値を認識しており、保健学習が重要な役割を果たすよう工夫している教師から指導を受けていることがうかがわれる。

- 児童質問紙調査の「保健を学習して、食事、運動、休養及び睡眠に気を付けるようになりましたか。」という質問に対して、「気を付けるようになった」、「どちらかといえば気を付けるようになった」という肯定的な回答の割合は82.2%、教師質問紙調査の「児童が自らの食事、運動、休養及び睡眠などの生活を振り返る授業を行っていますか。」という質問に対して、「行っている」、「どちらかといえば行っている」という肯定的な回答の割合は92.8%である。相当数の児童は、保健で学習したことを日常生活での実践に結び付けるよう工夫している教師から指導を受けており、児童は学習したことを振り返り、日常生活で生かそうとしている状況がうかがわれる。
- 児童質問紙調査の「保健の学習で、自分で予想したり、友達と協力して予想したりして、考えようとしていますか。」という質問に対して、「そうしている」、「どちらかといえばそうしている」という肯定的な回答の割合は72.8%、教師質問紙調査の「児童が予想を立てて考える授業を行っていますか。」という質問に対して、「行っている」、「どちらかといえば行っている」という肯定的な回答の割合は75.4%である。それぞれの回答には同じような傾向が見られ、見通しを持った学習活動を取り入れた指導が一部に定着していない状況が見られる。
- 児童質問紙調査の「保健の学習で、自分の考えを書いたり、発表したりすることをしていきますか。」という質問に対して、「そうしている」、「どちらかといえばそうしている」という肯定的な回答の割合は57.0%である。教師質問紙調査の「児童が自分の考えや意見を述べたり、発表したりするような授業を行っていますか。」や「児童が自分の考えや意見をノートや学習カード等を書くような授業を行っていますか。」という質問に対して、「行っている」、「どちらかといえば行っている」という肯定的な回答の割合はそれぞれ90.8%、85.2%である。児童質問紙調査と教師質問紙調査の回答の割合には相違が見られ、思考・判断することを踏まえて表現する学習活動が、児童にとって肯定的に捉えることが十分にできていないと考えられる。

#### ④ 児童質問紙調査とペーパーテスト調査との関係

- 心と体の相互の影響のうち「心から体への影響」について問う問題[6 **1**](5)①イ]と、児童質問紙調査の「保健で学習したことを、自分が知っていることや経験したことと比べたり、結びつけて考えたりしていますか。」をクロス集計すると、「そうしている」、「どちらかといえばそうしている」と肯定的な回答をしている児童のうち、46.1%が通過しているのに対し、「どちらかといえばそうしていない」、「そうしていない」と否定的な回答をしている児童のうち、通過しているのは39.5%であり、約6.6%の差がある。このことから、学習したことを自分が知っていることや経験したことと比べたり、結び付けたりする学習活動に取り組むことは、抽象的な概念と具体的な事例とを結び付けるような思考ができるようになることに一定の効果があると考えられる。
- 「心と体の関係について具体的な場面」を問う問題[6 **1**](5)②]と、児童質問紙調査の「保健の学習で、自分の考えを書いたり、発表したりすることをしていきますか。」をクロス集計すると、「そうしている」、「どちらかといえばそうしている」と肯定的な回答をしている児童のうち、49.1%が通過しているのに対し、「どちらかといえばそうしていない」、「そうしていない」と否定的な回答をしている児童のうち、通過しているのは43.8%であり、約5.3%の差がある。このことから、自分の考えを書いたり、発表したりする言語活動に取り組むことは、具体的な事例を挙げて表現する力を育成することに一定の効果があると考えられる。
- 「たばこを吸い始めた年齢と肺がんにかかる割合」について問う問題[6 **3**](4)]と、児童質問紙調査の「保健の学習で、写真や図や表からわかることを読み取って、まとめられますか。」をクロス集計すると、「そうしている」、「どちらかといえばそう

している」と肯定的な回答をしている児童のうち、50.5%が通過しているのに対して、「どちらかといえばそうしていない」、「そうしていない」と否定的な回答をしている児童のうち、通過しているのは40.8%であり、約9.7ポイントの差がある。このことから、写真や図や表から分かることを読み取ってまとめる学習活動することは、図などの意味を正しく理解して表現できるようになることに一定の効果があると考えられる。

- 「犯罪が起こりやすい場所を避け、犯罪に巻き込まれない方法を考えているか」を問う問題[6 2](6)]と、児童質問紙調査の「保健の学習で、事故や犯罪に巻き込まれないように、危険を予測したり、危険を避けたりすることを考えたり、調べたりしていますか。」をクロス集計すると、「そうしている」、「どちらかといえばそうしている」と肯定的な回答をしている児童のうち、75.9%が通過しているのに対して、「どちらかといえばそうしていない」、「そうしていない」と否定的な回答をしている児童のうち、通過しているのは69.3%であり、約6.6%の差がある。このことから、危険の予測や回避についての思考・判断を伴う学習活動をすることは、犯罪に合いやすい点について見付けることができるようになることに一定の効果があると考えられる。
- 「人々の病気を予防するために、生活習慣にかかわる情報提供や予防接種などの地域の様々な保健活動を行っている場所の理解」を問う問題[6 3](6)①]の通過率は19.6%で、ペーパーテスト調査の中で通過率が最も低く、意識調査においても、「地域の様々な保健活動の取組」で「わかった」という回答の割合は64.0%にとどまっている。学習指導要領に示されている第5・6年生の保健で学習する他の九つの内容の全てが80.0%を超えていることから、理解が十分でないと考えられる。

## 2. 今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点

### (1) 健康課題を解決する能力（思考力・判断力・表現力等）の育成

#### ① 児童の身近な体験や事例を取り上げたり、生活経験やこれまでの知識と関連付けたりする指導の充実

- 身近な健康課題を解決する能力には成果が見られるが、これらの学習は健康の保持増進に重要なことから引き続き指導の充実を図ることが重要である。それには、自分の生活での食事・運動・休養及び睡眠を振り返り、規則正しい生活やそうでない例と比較し、どんなところに課題があるかを見付け、それらを踏まえてこれからどんな生活をしていくとよいかをまとめていくというように、児童の身近な日常生活の体験や事例を取り上げた指導とともに、児童の生活経験やこれまで持っている知識と、保健の授業で新たに学んだことを比較したり、関連付けたりする指導が必要である。

#### ② 病気やけがの発生要因を予想し、その起こり方を整理し、予防の方法を考える指導の充実

- 病気を予防し、けがを防止することを通して、健康の保持増進を図る能力を高める指導が引き続き重要である。  
例えば、第6学年で学習する病気の予防の生活行動が関わって起こる病気の予防の指導で、心臓や脳の血管が硬くなったり詰まったりする病気について、その発生要因となる生活行動を予想し、なぜそのような生活行動をすると血管が硬くなったり詰まったりするのかを考え、それらを踏まえて病気の発生要因と起こり方を整理し、そしてどのような生活行動をとるのがよいかを考え、判断することができるようにする指導が考えられる。

#### ③ 健康・安全の課題に対して、その種類や程度などの状況を考え、判断する指導の充実

- 特に将来遭遇する可能性のある健康・安全の課題に対して、その種類や程度などの状況を判断し、適切に対処する能力を高める指導が必要である。  
例えば、第5学年で学習するけがの防止や犯罪被害の防止では、「犯罪にあいやすい点」について、状況の場面を設定し、事件に巻き込まれないように危険を予測したり、危険を避けたりすることを考えたり調べたりするといった指導が有効である。  
また、「頭を強く打って動かなくなった友達がいたときの対処」といった緊急性の高い状況の場面を設定し、その際どのように対処することが正しいかを考え、幾つかの場面に活用することができるようにする指導が考えられる。

#### ④ 健康情報を分析し、その意味を考え表現できるようにする指導の充実

- 身近な健康情報を比較したり、関連付けたりすることによって、その意味を考え表現できるようにする指導が大切である。  
例えば、喫煙と健康の関係についての写真や図などから分かることを読み取ってまとめるといった指導や、他の情報と関連付けてまとめ発表することができるようにする指導が考えられる。

#### ⑤ 健康に関する概念について、具体例を挙げて説明する能力を高める指導の充実

- 抽象的な健康の概念と具体的な事例を結び付けて考え説明するといった能力を高める指導を充実させる必要がある。  
心の健康における心と体の相互の影響について、不安や緊張時には動悸が激しくなったり腹痛を起こしたりすること、体調がよいときは気持ちが明るくなったり集中できたりするといった事例を挙げて発表するなどして、学習したことと自分が知っていることや経験したことと、比べたり結び付けたりして説明するような指導の充実が必要である。

## (2) 健康・安全に関する基礎的な内容の理解の促進

### ① 健康をめぐる現代的な課題に対応した指導の充実

- 生活習慣の乱れや食生活に関する内容についての理解は重要な内容であり、引き続き指導の充実を図ることが重要である。  
食事について、体をつくる基になるたんぱく質、骨や歯をつくる基になるカルシウム、体の調子を整えるビタミンなどの摂取が必要であることなどの知識を着実に身に付けるように指導することが大切である。
- 安全に関する内容のうち、交通安全についての基礎的な理解や、けがの手当のうち傷口を清潔にすること、圧迫して出血を止めること、患部を冷やすことといった自分でできる基礎的な手当の理解は重要な内容であり、引き続き指導の充実を図ることが重要である。一方で、自分では手当できない大きなけがの判断といった内容に課題があると考えられる。このことから、けがの種類や程度などの状況に応じて対処方法を判断する指導の充実が必要である。
- 心の健康については、自分の心を発達させるために生活の中でできそうなことを挙げたり、心と体の相互の影響について具体例を挙げたりするといった、児童の生活経験やこれまでの知識と、保健の授業で新たに学んだことを比較したり、関連付けたりすることができるようにする指導の充実が必要である。  
また、児童ができそうな不安や悩みへの対処方法についての内容では、体ほぐしの運動を用いるなどして、保健領域と運動領域の相互の内容を関連付けた指導の充実が必要である。
- 性に関する内容については、基礎的な内容の指導の充実が必要である。  
例えば、第4学年で学習する体の発育・発達では、男女の特徴や初経・精通などの思春期の体の変化と異性への関心についてといった性に関する基礎的な知識を確実に身に付けるように指導することが大切である。
- 感染症に関する内容については、病気の予防について病原体が体に入るのを防ぐことへの理解とともに、予防接種により体の抵抗力を高める方法として、具体的な病気と予防接種の関わりについての理解が深まるような指導の充実が必要である。

### ② 地域で行われている人々の健康を守るための活動の指導の充実

- 今回の改訂で新設した内容のうち、地域の様々な保健活動の取組といった地域で行われている人々の健康を守るための活動についての指導の充実を図ることが必要である。  
このような活動は、児童が生活の中でイメージしにくいことから、児童がこれまでに見たり利用したりしたことのある施設を取り上げたり、児童の住む場所の事例を取り上げたり、保健所や保健センターで実際に行われている「健康に関するお知らせ」や「予防接種」といった活動を示したりするといった指導の充実が必要である。

## (3) 健康・安全の課題に対して積極的・主体的・協働的に学ぶ指導の充実

- 児童の持つ保健の学習の価値や成果の認識は高く、指導に当たる教師の保健の内容の意義や重要性の認識も極めて高い。また、教師は習得した知識を活用する学習活動を積極的に行い、思考力・判断力等の育成を目指した指導を工夫している。  
そのことは、児童の持つ保健の学習の価値や成果の認識の高さに応えることになるだけでなく、生涯にわたって、自らの健康・安全の課題に対して主体的に解決を図っていく能力と、自らの健康・安全を決定付ける要因を、人々と積極的なコミュニケーションを取りながら、またお互いを尊重しながらよりよくコントロールできるようにしていくという、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた能力を高めることにつながるものである。  
今後も、児童が興味・関心のある資料を用いて調べたり、児童の多様な考えを引き出すためにグループや全体で話し合ったりするなど、児童の考えを深めたり広げたりする活動を取り入れるなどにより、健康・安全の課題に対して、積極的、主体的、かつ仲間の意見を聞きながら協働的に学び、生活に役立てるための基礎を身に付ける指導の充実が重要である。

### 3. 問題例と解答類型

6 A 1 (2)

第3学年及び第4学年 G保健 (2)体の発育・発達

イ 体は，思春期になると次第に大人の体に近づき，体つきが変わったり，初経，精通などが起こったりすること。また，異性への関心が芽生えること。

(2) あきらさんは，思春期について学習したことを思い出しました。思春期について説明したもので，間違っているものはどれですか。次の1から4の中から1つ選び，その番号を□の中に書きましょう。

思春期は，大人の体に変化する時期で，人によって違うものの，

- 1 男子に初経が，女子に精通が起こります
- 2 女子は丸みを帯びた体つきになり，男子はがっしりした体つきになります
- 3 変声が起こったり，発毛したりします
- 4 異性に関心を持つようになります

 (2)

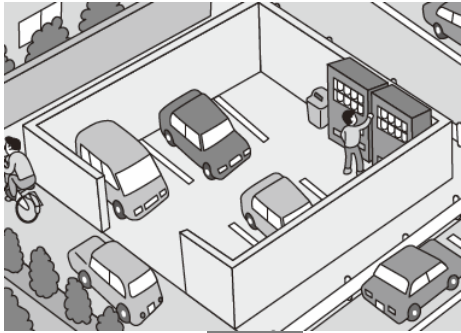
問題番号	解答類型	類型番号	反応率 (%)
1 (2)	1 と解答しているもの	◎ 1	47.6
	2 と解答しているもの	2	17.9
	3 と解答しているもの	3	13.2
	4 と解答しているもの	4	20.7
	上記以外の解答	9	0.1
	無解答	0	0.4

通過率：47.6% (◎：正答)

6 A 2 (6) 犯罪にあいやすい点

第5学年及び第6学年 G保健 (2)けがの防止

ア 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること。



(6) 場面3の駐車場では、どのようなことが<犯罪にあいやすい点>でしょうか。□の中に書きましょう。

<犯罪にあいやすい点>

.....

.....

.....

.....

場面  
3

(20)

問題番号	解答類型	類型番号	反応率 (%)
2	(6) 犯罪にあいやすい点	塀で囲まれて周囲が見えづらい。出入口が1か所しかなく、いざというとき逃げづらい。など	◎ 1 86.1
		上記以外の解答	9 11.4
		無解答	0 2.5

通過率：86.1% (◎：正答)

6 A 3(3)


第5学年及び第6学年 G保健 (3)病気の予防


ウ 生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、栄養の偏りのない食事をとること、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。


(3) ひろしさんは、【おもに生活のしかたがもとになって起こる病気の起こり方】について調べ、言葉とイラストを使ってノートにまとめました。

<ひろしさんのノート>


**【おもに生活のしかたがもとになって起こる病気の起こり方】**

運動不足 


たばこやお酒の飲みすぎ 


ストレス 

(ウ)



血管がせまくなり、血液が流れにくくなる。

ぞう 心臓の病気 

のう 脳の病気 

<ひろしさんのノート>の(ウ)に最も当てはまる言葉を、次の1から4の中から1つ選び、その番号を□の中に書きましょう。

- 1 カルシウム、ビタミンのとり過ぎ
- 2 手洗い、うがいあらをしない
- 3 糖分、しぼう、塩分とうのとり過ぎ
- 4 人ごみのところへ行く

(24)

問題番号	解答類型	類型番号	反応率(%)
3	(3)	1 と解答しているもの	1.4
		2 と解答しているもの	7.7
		3 と解答しているもの	◎ 3 86.3
		4 と解答しているもの	3.9
		上記以外の解答	9 0.1
		無解答	0 0.6

通過率：86.3% (◎：正答)



4. 総括表

評価の観点

- 1 運動や健康・安全への関心・意欲・態度
- 2 運動や健康・安全についての思考・判断
- 3 運動の技能
- 4 運動や健康・安全についての知識・理解

学年	冊子	問題番号			出題のねらい	ペーパーテスト調査結果の主な観点(主な特色の該当番号)	学習指導要領該当項目	評価の観点				出題形式			通過率(%)	評価の±5%適用
		大問	中問	小問				1	2	3	4	記述式	選択式	その他		
6	-	1	(1)		体の発育・発達の個人差について理解している。	①イ, ②	[第3学年及び第4学年] G(2) 体の発育・発達 ア				○		○		97.0	
6	-	1	(2)		思春期の体の変化について理解している。	①イ, ③	[第3学年及び第4学年] G(2) 体の発育・発達 イ				○		○		47.6	
6	-	1	(3)	①	たんばく質摂取の必要性について理解している。	①イ, ③	[第3学年及び第4学年] G(2) 体の発育・発達 ウ				○		○		77.7	
6	-	1	(3)	②	カルシウム摂取の必要性について理解している。	①イ, ③	[第3学年及び第4学年] G(2) 体の発育・発達 ウ				○		○		84.9	
6	-	1	(3)	③	ビタミン摂取の必要性について理解している。	①イ, ③	[第3学年及び第4学年] G(2) 体の発育・発達 ウ				○		○		83.5	
6	-	1	(4)	まとめた活動	心の発達には、人との関わりが大切であることについて理解している。	①イ, ③	[第5学年及び第6学年] G(1) 心の健康 ア				○		○		92.4	
6	-	1	(4)	生活でできそうなこと	心を発達するために自分でできそうなことを記述している。	①ア(ア), ③	[第5学年及び第6学年] G(1) 心の健康 ア		○				○		94.1	
6	-	1	(5)	①(ア)	心と体の相互の影響のうち体から心への影響について思考・判断できる。	①ア(ウ), ③	[第5学年及び第6学年] G(1) 心の健康 イ		○				○		77.6	
6	-	1	(5)	①(イ)	心と体の関係について、心が体に影響することの具体例を思考・判断している。	①ア(ウ), ③	(1)イ 心の健康 [第5学年及び第6学年] G(1) 心の健康 イ		○				○		44.0	
6	-	1	(5)	②	心と体の関係について、具体的な場面を思考・判断・表現している。	①ア(ウ), ③	[第5学年及び第6学年] G(1) 心の健康 イ		○				○		46.6	
6	-	1	(6)		自分ができそうな不安や悩みへの対処方法についてしていることやしようと思っていることをあげている。		[第5学年及び第6学年] G(1) 心の健康 ウ	※					○		-	
6	-	2	(1)	ア	道路を横断する際の安全確認について思考・判断できる。	①ア(ア), ③	[第5学年及び第6学年] G(2) けがの防止 ア		○				○		76.2	
6	-	2	(2)	人の行動	自転車転倒事故の発生原因となった、人の行動と環境について思考・判断している。	①ア(ア), ③	[第5学年及び第6学年] G(2) けがの防止 ア		○				○		87.5	
6	-	2	(2)	まわりの環境	自転車転倒事故の発生原因となった、人の行動と環境について思考・判断している。	①ア(ア), ③	[第5学年及び第6学年] G(2) けがの防止 ア		○				○		94.3	
6	-	2	(3)	イ	傷口を清潔にすることについて理解している。	①イ, ③	[第5学年及び第6学年] G(2) けがの防止 イ				○		○		89.6	
6	-	2	(3)	ウ	圧迫して出血を止めることについて理解している。	①イ, ③	[第5学年及び第6学年] G(2) けがの防止 イ				○		○		86.9	
6	-	2	(3)	エ	患部を冷やすことについて、理解している。	①イ, ③	[第5学年及び第6学年] G(2) けがの防止 イ				○		○		91.3	

学年	冊子	問題番号			出題のねらい	ペーパーテスト調査結果の主な観点(主な特色の該当番号)	学習指導要領該当項目	評価の観点				出題形式			通過率(%)	評価の±5%適用
		大問	中間	小問				1	2	3	4	記述式	選択式	その他		
6	-	2	(4)		頭を強く打って動かなくなった友達への対処について思考・判断できる。	①ア(イ), ③	[第5学年及び第6学年] G(2) けがの防止 イ		○				○		63.1	○
6	-	2	(5)		危険な場所について気付き、事故やけが、犯罪被害を防ぐ方法を考えている。	①ア(ア), ②, ③	[第5学年及び第6学年] G(2) けがの防止 ア		○				○		77.8	
6	-	2	(6)	犯罪に あいや やすい 点	周囲の状況を見極め、犯罪にあいややすい点を考えている。	①ア(ア), ②, ③	[第5学年及び第6学年] G(2) けがの防止 ア		○				○		86.1	
6	-	2	(6)	気をつ けるこ と	犯罪が起こりやすい場所を避け、犯罪に巻き込まれない方法を考えている。	①ア(ア), ②, ③	[第5学年及び第6学年] G(2) けがの防止 ア		○				○		74.6	
6	-	3	(1)		インフルエンザの予防について理解している。	①イ, ③	[第5学年及び第6学年] G(3) 病気の予防 イ					○		○	97.2	
6	-	3	(2)		体の抵抗力を高めることについて理解している。	①イ, ③	[第5学年及び第6学年] G(3) 病気の予防 イ					○		○	56.6	
6	-	3	(3)		生活の仕方がもとになって起こる病気の原因について思考・判断できる。	①ア(イ), ③	[第5学年及び第6学年] G(3) 病気の予防 ウ		○					○	86.3	
6	-	3	(4)		たばこを吸い始めた年齢と肺がんにかかる割合について思考・判断できる。	①ア(イ), ③	[第5学年及び第6学年] G(3) 病気の予防 エ		○					○	47.5	
6	-	3	(5)	①	現在の日本における死亡原因の一位ががんであることについて理解している。	①イ, ③	[第5学年及び第6学年] G(3) 病気の予防 ウ					○		○	79.4	
6	-	3	(5)	②	死亡原因が一位の病気について知りたいことをあげている。	③	[第5学年及び第6学年] G(3) 病気の予防 ウ	※						○	-	
6	-	3	(6)	①	地域の様々な保健活動を行っている場所を理解している。	①イ, ②	[第5学年及び第6学年] G(3) 病気の予防 オ					○		○	19.6	
6	-	3	(6)	②	地域で人々の健康を守るための保健活動について関心を持って調べてみたいことをあげている。	②	[第5学年及び第6学年] G(3) 病気の予防 オ	※						○	-	